

▼『おすそわけでつながる暮らし～小さな幸せの循環便り』の連載を始めます

埼玉から北海道下川町に移住して、持続可能な暮らしを実践している小峰博之さんに、毎月自身の体験をもとに、暮らしの様子を寄稿していただく連載企画が始まりました。

下川町への移住を検討されている方が、小峰さんのライフスタイルに関心を持ち、実際に小峰さんのような暮らしを志向し、下川町への移住を決断されるケースも少なくありません。

本連載を通じて、既下川町にお住まいの皆様にも、この町の新たな魅力や、日々の暮らしを豊かにするヒントを再発見していただければ幸いです。

※小峰さんは、「拙者」など忍者風の一人称で発信しています。真面目に語るのが照れくさくて始めたそうで、言葉の選び方にもその人柄が表れているようです。

おすそわけでつながる暮らし ～小さな幸せの循環便り～



第1話：都市を離れて下川にたどり着くまで

拙者は、27年前（1998年1月）にお金に依存しない、支え合いや物々交換、自給自足による域内循環型の持続可能な暮らしを求め、北海道下川町に移住した。

身近にあるものを生かしながら、地域の方たちと互いのできることをおすそわけしあって暮らしている。

暮らしに必要な食やエネルギーもなるべく身近なものを生かしている。

春は山菜や野草、夏秋は野菜や木の実（たまに川魚も）、冬はシカ肉など、その土地で育つ、その時期にあるものを食べる暮らしを心掛けている。

エネルギーは、電気を太陽光発電で賄い、料理や湯沸かし、暖房などの熱を、薪、使われない木材、枯れ枝、燃やせる木質系ごみを燃料に使って、冬は薪ストーブ、夏は手作りのミニロケットストーブなどで賄っている。

でも無理をせず、時間のないときは料理にカセットコンロも使うし、発電を生かして電子レンジも活用している。

10年前（2015年）からは北海道和種馬（ドサンコ）のハナも飼って、域内循環型の暮らしに生かしている。愛馬ハナは拙者を乗せて、毎日のように、町内のあらゆる施設や民家を巡る。―続く―

第1話の続きは下川町移住情報サイト「タノシモ」でご覧ください。

12ヶ月にわたってホームページ上で毎月公開していきますのでお楽しみに。

小峰さん連載のまとめページ→

